

野口精子 せいのこ 歌人、詩人。明治十二年十月二十日福岡縣柳川生れ、大正十年八月一日歿（一八九一—一九二二）。舊姓安本、本名せい。筆名せい子、精、野口せい子。熊本の大江女學校卒。牧師野口未彦に嫁し、任地に從ひ、前橋、宮崎を経て、東京本郷協會に奉仕。また雑誌『新女界』編輯に從事。短歌は獨學で歌壇との交渉もなかりた。

歌集『夕ばえ』（大正四年十月二十三日警醒社書店）、同上三咲（のちの黒田禮）共著『若き日のため』繪と歌と物語（大正六年十月二十三日警醒社書店）、遺稿『魂のはばたき』（大正十一年十一月五日警醒社書店）。